

■著者紹介

ガバン・マコーマック Gavan McCormack

東アジア現代史。メルボルン大学卒業後、ロンドン大学博士号取得。リーズ大学、ラトロープ大学、アデレード大学で教鞭をとった後、1990年からオーストラリア国立大学太平洋アジア研究学院歴史学科教授。現在、同大学名誉教授。その間、京都大学、立命館大学、筑波大学、国際基督教大学の客員教授を務めた。著書に *Client State: Japan in the American Embrace* (Verso, 2007) 『属国——米国の抱擁とアジアでの孤立』（凱風社、2008）、*Target North Korea: Pushing North Korea to the Brink of Nuclear Catastrophe* (Nation Books, 2004) 『北朝鮮をどう考えるのか——冷戦のトラウマを越えて』（平凡社、2004）、*The Emptiness of Japanese Affluence* (M.E. Sharpe, 1996) 『空虚な楽園——戦後日本の再検討』（みすず書房、1998）等。英国出身、オーストラリア・キャンベラ在住。

のりまつさとこ
乗松聡子 Satoko Oka Norimatsu

東京出身、カナダ西海岸に通算18年在住。レスター・B・ピアソンカレッジ卒、慶應義塾大学文学部卒、ブリティッシュ・コロンビア大学(UBC)経営学修士。国際教育交流事業運営、UBC異文化間コミュニケーションセンター講師を務めた後、2007年に「ピース・フィロソフィー・センター」(www.peacephilosophy.com)設立、代表。沖縄米軍基地問題、核兵器と原発問題、歴史認識問題等、日本とアジア太平洋地域の平和・人権・社会正義について英語と日本語で教育・研究・執筆活動を行う。海外の学生や教育関係者向けの広島、長崎、沖縄等への学習旅行の企画・講師・通訳も務める。訳書『広島・長崎への原爆投下再考——日米の視点』（法律文化社、2010年）他。

ツイッター：@PeacePhilosophy フェイスブック：Peace Philosophy Centre
(乗松は日本語版の翻訳・加筆修正も担当。)

両著者はオンライン英文誌『アジア太平洋ジャーナル：ジャパン・フォーカス』(www.japanfocus.org) 編集コーディネーター。同ジャーナルは2008年、沖縄についての英語発信を評価され、琉球新報社より池宮城秀意賞を受賞。